

【事業実績】

地域博物館のネットワーク形成による石川観光文化資源促進事業

金沢大学資料館

※作成要領に従い事業実績は2頁で作成ください。

1. 連携博物館のDX化の促進及び連携各館職員の

デジタルスキルの取得

(1) デジタルアーカイブの研修

① ネットワーク構築のための連携各館との連携会議

新型コロナウイルスに対する不安が払拭できない状況であったことから、集合形式をとらずメールでの綿密なやり取りやWEBにて会議を行った。

会議では3D化研修日時の確認、IDMN掲載用の資料データの3D化やコンテンツ数の目標について確認し、併せて掲載資料等の解説作成の進捗確認を行った。



【6連携機関による合同WEB会議】

② 3D化撮影・編集技術専門講師による、連携各館でのデジタルアーカイブ研修の実施

3Dデータ化用の撮影機材や編集ソフトが入ったPCを業者から借り受け、専門技術に長けた講師を招へいし、各連携機関6館それぞれにおいて学芸員等関係者へ約1.5日間研修を実施した。座学にとどまらず、実際に実践を伴った講義を行い、受講者らは真剣にメモを取りつつ装置を動かすなどの技術を習った。



【研修風景:石川県立自然史資料館】



【研修風景:羽咋市歴史民俗資料館】



【日本経済新聞にIDMNが掲載】

(2) 連携各館所有資料等のデジタルアーカイブ化

① 連携各館において資料等の撮影・データ化の推進

② 金沢大学留学生の目から見た、連携各館のDX化への助言集約

③ 日本語版、英語版、中国語版の連携各館のデジタルアーカイブの発信（アンケート紹介含む）

各連携館所蔵の資料等を撮影し、デジタル化したデータや解説文の収集及びアンケートの掲載、全般のレイアウト等を中核館である本館が中心となって推し進め、「石川デジタルミュージアムネットワーク」（以下「IDMN」という。）を最初に日本語版を11月下旬から、英語版・中国語版を2月初旬に確立させた。その結果、2月16日の時点で、中国、インド、シンガポール、アメリカ合衆国、カナダ、グアテマラ共和国、エジプト、ニュージーランド等からのアクセスが確認され、海外へ広く周知されたことが分かった。また、本学留学生複数名が同行し、多様かつ国際的な視点からの意見を得ることで、海外の閲覧数増加のための方策のための意見交換を行った。

★石川デジタルミュージアムネットワーク URL : <https://idmn.w3.kanazawa-u.ac.jp>

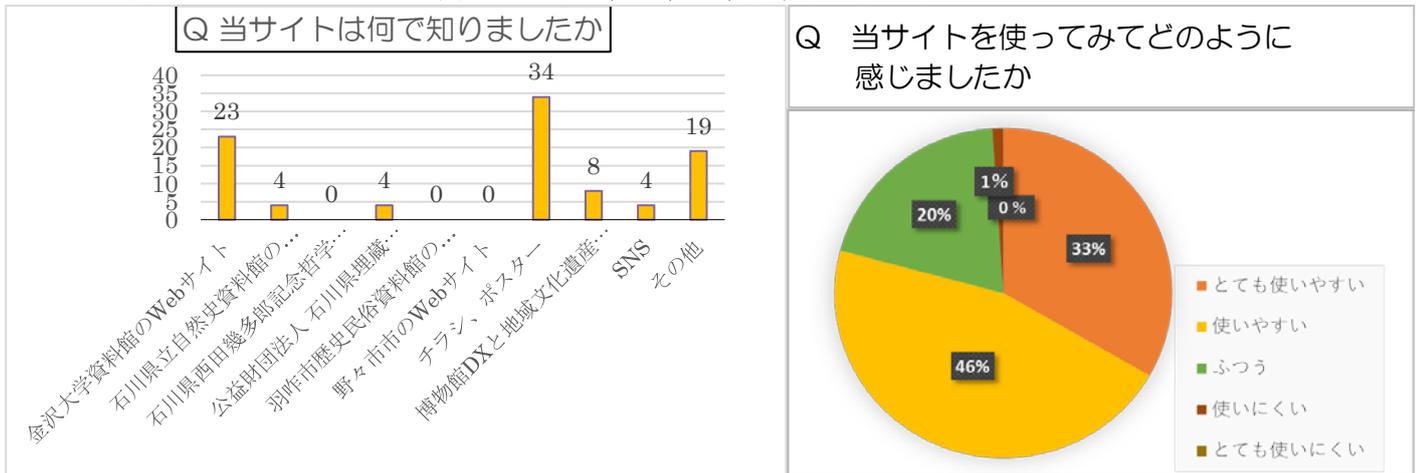
IDMN アンケート意見から（国内：石川、富山、新潟、愛知、神奈川、奈良、三重県）

「色々な資料を楽しく見ることができ、直接博物館へ行き資料を見たいと思った」「遠くにいながら見学でき便利。実際に訪れる際の参考になる」「横断検索で絞込みしやすく、どこに何があるかわかりやすい」「デザインが洗練され動きもスムーズ」「博物館の間の距離が明確」「今後のコンテンツ増加に期待」

IDMN アンケート意見から（海外：中国、インド、アメリカ合衆国）

「画像をクリックすると各場所に直接接続できるので、とてもスムーズで簡単」「非常に簡単に閲覧でき、セクションやトピックが見つかりやすいように整理されている」「複数の言語オプションが明確に表示され、訪問者が切り替えて利用できる」「ナビゲーションが簡単で、Webサイトに何があるのか、提供されている情報を知るのが簡単」

★ 石川デジタルミュージアムネットワーク (IDMN) の利用者アンケート



2. 観光客を含め県内外に向けた情報発信を目的とした関連行事の開催

(1) 博物館 DX を活用した多様な文化観光資源の発信

① 本学融合学域観光デザイン学類、スマート創成科学類との連携

本学融合学域（先導、観光デザイン、スマート創成科学の3学類）は、従来の専門分野に縛られない文理融合（異分野融合）の融合的・統合的な学修の提供やイノベーションをリードする人材育成を目標とする新しい学域である。融合学域の協力を得て、スマート創成科学類では、本事業で取り組んだDX化（3D化）を用いた未来課題の対応についての授業を、また、観光デザイン学類の授業では、地方創成・観光価値のデザインを目的に本事業をどのように観光産業に役立てるかに関するケーススタディをして取り上げ、教育に役立てることができた。

② シンポジウム資料集の作成・配付

③ シンポジウム当日の連携機関と講師・学識者による事前会議

④ 「博物館DXと地域文化遺産シンポジウム石川2023」の開催

⑤ アンケートの実施・集計・分析

12月17日（日）に金沢駅前のハイアットセントリック金沢にて「博物館DXと地域文化遺産シンポジウム石川2023」を開催した。開催に当たり、当日のプログラムや講演要旨をまとめた「資料集」を作成・配付し、来場者は開始前や講義を聴きながら、興味深く目を通していった。

また、当日、シンポジウム前に「事前会議」を行い、講演会講師を含め連携各館等のメンバー間で基本理念の確認を再度行った上で、シンポジウムのプログラム進行確認・調整を行った。

広報活動として、IDMN 開設及びシンポジウム開催案内の両チラシを全国の博物館関係機関、駅構内観光案内所・中央観光案内所等へ事前配付し、周知を図った。また、シンポジウム会場は駅前であったことから当日の参加者も想定し、JR 西日本の協力を得て金沢駅構内で本学学生アルバイトによるシンポジウムの案内を行ったほか、駅構内のデジタルサイネージ（金沢商工会議所所有）に掲示を依頼し、観光客や買い物客等を対象とした宣伝を広く実施した。

その結果、シンポジウムの参加者は、会場参加が当日参加の観光客を含め114名、オンライン参加は60名の計174名という多数が参加し、シンポジウムに続く討論会での意見交換や質疑応答など活発なやり取りがなされるなど、成功裏にシンポジウムを終えることができた。



【事前会議風景】



【博物館DXと地域文化遺産シンポジウム石川2023】

シンポジウムアンケート意見から

「駅近くで一般者が参加しやすく、ZOOMの参加が可能など、開催方法が良いと思う」「博物館資料のデジタルアーカイブが想定より進んでいて驚いた」「高齢化などにより遠方へ出向くことが難しい人用にもモバイルミュージアムは役立つと思う」「デジタル資料の公開は、即効性が高く利用者にとって便利一方、限られた資源や人員の中で設備を準備する大変さが理解できた」「認知されていない地域資料を長く守っていく取り組みの話が興味深かった」「DXを用いた資料の利用促進、地域とのつながりについて理解でき、DXがもたらす可能性について考える機会となり、博物館の将来について考えさせられた」「博物館を訪れる際には、シンポジウムの内容を思いだし新たな角度で展示を鑑賞したい」